

6. 四天王寺の見どころ（2）中央伽藍外のお堂

四天王寺には、中心伽藍以外にも多数のお堂があり、それぞれに御本尊が祀られています。

個性的な仏像や興味深い背景を持つお堂もありますので、ぜひ、じっくりと散策してみてください。

1) 六時礼讃堂（六時堂）【重要文化財】

御本尊：薬師如来坐像

六時堂の正式名は「六時礼賛堂」になります。

礼賛とは、「立派な人を褒め称える」「立派な人を崇めたたえる」などの意味合いがあることから、聖徳太子を崇めるために造営されたお堂であると容易に理解ができます。

六時堂が六時礼讃堂と呼ばれる理由は、1日に6回、昼夜欠すことなく、「諸礼讃」という法要が営まれることに由来します。

浄土宗には「六時礼讃」という念仏三昧の法要があり、これは1日を6つに分けてその中の1つ毎に勤行（念仏読経・礼拝）を行うことから、「六時礼讃」と呼ばれます。

六時堂・六時礼讃の「六時」とは単に時間の六時を意味するのではなく、1日を6つの時間に分けて勤行を行うことから、次のような「六時堂」の名前が付されています。

日没（にちもつ）：申～酉の刻

初夜（しょや）：戌～亥の刻

中夜（ちゅうや）：半夜（はんや）※子～丑の刻

後夜（ごや）：寅～卯の刻

晨朝（じんじょう・しんちょう）：辰～巳の刻

日中（にっちゅう）：午～未の刻

これら6つに分けて勤行を行う修法は、四天王寺独自に見られるものではなく、例年2月に執り行われる東大寺修二会でも見ることができます。

四天王寺は大阪の陣と太平洋戦争とで2回、灰燼に帰し、過去の四天王寺を物語る資料も同時に焼失してしまい、今となっては四天王寺の確たる歴史を知ることができないのが現状です。

この六時堂に関しては、現存する文献を見るかぎり、816年に創建されて以来、1623年（元和9年）に再建されており、これが現在見ることのできる姿です。

1945年（昭和20年）に起こった大阪大空襲の被害により、伽藍は灰燼に帰しましたが、奇跡的にこの六時堂ほか、五智光院、本坊方丈など伽藍の北側部分は被害を受けず、六時堂は戦火の難を逃れています。

